

第1章 教育

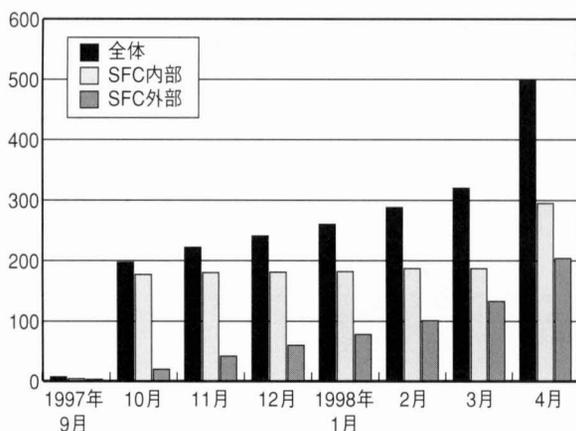
School of Internet

▶ 新しい試み——インターネット上の大学 ◀

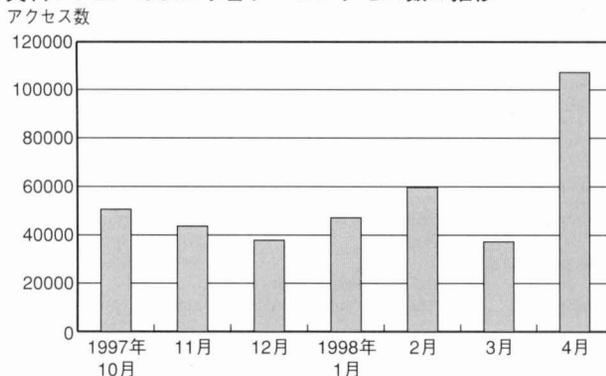
インターネット——学びへの希求

インターネットは、コンピュータとコンピュータを接続する技術から始まり、現在では社会の共通基盤としての役割を担うようになってきた。時間的、地理的制限にしばられずにグローバルな社会活動を行うことができるのがこの基盤の大きな特長である。社会基盤の一部となりつつあるインターネットに関することを学びたい人は、一般的にも急増している。しかしインターネットについて教えてくれる大学は少なく、日本にはまだインターネット学科は存在しない。それにはさまざまな要因があるが、インターネットという分野が新しく、教える人材を1つの大学に確保するのは困難であること、大学に新しい学科を設立するのは国の制度上、大変長い時間がかかること、新しい分野であるがゆえに大変流動的な部分を持っているので、カリキュラム構築が困難であることなどが挙げられる。また、インターネットと一口に言ってもきわめて多岐にわたり、インターネットに特化した技術だけにとどまらず、その技術を理解するためには、工学基礎的知識や経済学的基础知識など必要となる分野も多い。一方インターネットを学ぶことへの要求は、いわゆる学生だけではなく、社会人も強くもっているため、時間的自由度も重要なポイントである。このように、インターネットを学ぶための環境は、現状では従来の大学という枠で実現できるものではない。

資料4-1-21 SOI学生数の伸び



資料4-1-22 SOIのウェブへのアクセス数の推移



WIDE大学 SOIの始動

そこで、WIDEプロジェクトでは、デジタルテクノロジーとインターネット環境を利用した大学環境を模索するために、WIDE大学SOI (School of Internet) を実験的に開始し、実際の大学の授業にもとづいた教育システムの実験を1年間行ってきた (<http://www.sfc.wide.ad.jp/soi/>を参照)。

WIDE大学 School of Internet は、1997年10月から1998年3月までに、インターネットやコンピュータに関する大学の授業や、チュートリアル、講演、会議などを収録・蓄積し、約25の話題について網羅した120時間分程度のオンデマンド型の講義配信を行っている。1998年4月現在、社会人、学生を含む、さまざまな年齢、環境の学生約500名が登録、授業に参加している。

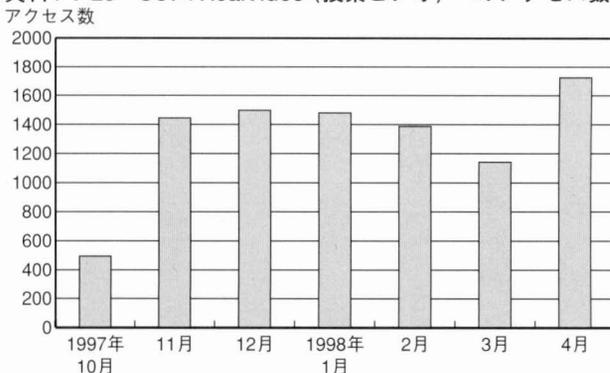
授業は、単なる配信だけではなく、授業を大学の教室で受講している学生と、遠隔で受講している学生とが同じ授業に参加し、課題を通してお互いに学び合える教室環境をインターネット上に構築している。蓄積された授業は受講者はみな利用可能で、必要な時に必要な事柄についての知識を入手できるようになっている。また同時にライブ러리としての役割も果たしている。本実験を通して、教室で行う授業を忠実に再現する以上に、従来の教室と紙の世界では実現できなかった要素を取り入れることにより、インターネット上の大学の新しい可能性が発見された。

今後の課題

一方、インターネット上での授業資料を取り扱うための著作権問題、カリキュラムの一部に大学の授業を組み込む際の授業の知的財産権の問題、国立大学の授業を組み込む際の国有財産法に関する問題など、解決すべき問題も数多く発見された。また、法的対応だけでなく、School of Internetのような広域に分散する学生と教授を自由に結びつけて構成する大学モデルを維持するためには、適切な課金モデルの構築、大学の単位に結びつけるための仕組み、動的な負荷分散など、現時点での課題は多い。

(大川恵子・慶應義塾大学)

資料4-1-23 SOIのRealVideo (授業ビデオ) へのアクセス数



【出所】 資料4-1-21~23 SOIの資料を元に作成



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp